

# みかい

安住院便り  
(第32号)

平成26年1月1日発行

〒703-8236

岡山市中区国富3丁目1-29

住職 生駒琢一

TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

## 宝物(ほうもつ)

お寺にある宝物(ほうもつ)は、決して金銀財宝などでは無く、什物(じゅうもつ)ともいいいますが、昔から寺に伝わる大切な仏具などを示します。御本尊を初めてとする種々の仏像・仏画、仏教の勉強をする為の様々な聖教などが多いですが、古くから続く当院では、藩主を初め多くの方々からの寄進の書画などもあります。

下図で有名な東京国立博物館の国宝「地獄草紙」も、昔は当安住院にあり、昨年秋季に岡山県立美術館での展示で、ご覧になった方も多いたと思います。

「地獄草紙」は、平安末期に平清盛などの武家政治に移る頃、流行した六道輪廻・極楽思想より生み出された地獄を、經典の内容を解り易い絵巻にしたもので、「餓鬼草紙」などと同様、巻物になっています。

どのような経緯で、安住院蔵になったのかは、定かではありませんが、江戸時代の岡山で中心的な寺院であった当院に、どなたかが寄進して下さったと考えられます。



一般の皆さんには、「地獄草紙」のような、骨董的価値の有る文学作品に注目がいきませんが、当院には真言宗の修行の為の荘厳類や經典が数多く残り、仏教関係に於いて、とても重要な物もあります。決して「・鑑定団」で金額を付けられるような物ではありません。そして、当院にあるからこそ、値打ちがあるのです。他にも中世の岡山の状態を知る手掛かりになる、歴史資料も有していると考えます。

それらは、明治維新の廃仏毀釈で散逸したり、太平洋戦争後の混乱のため、整理出来ずにおりました。その中、境内整備を期に、少しずつではありますが、箱を開けて分類を進めて来ています。大学の先生に、目録作りもお願いしています。皆様に展示出来る形までの整理は、現住職の代で可能かどうか不明ですが、次の住職にもしつかり受け継いで行きますので、ご安心下さい。本堂・多宝塔のように、どなたにでも分かるものではありませんが、とても素晴らしい貴重な資料です。今後とも、檀信徒の皆さんにお知らせできるよう、努力していきます。しかし、中には修復作業も必要なものもあり、何卒物心両面からのご協力を宜しくお願い申し上げます。

合掌

## 初観音法会のご案内

来る一月十七日（金曜）

午後一時より

本尊千手観音御宝前に於いて、大般若祈禱並びに護摩供を厳修致します。

年頭にお配りする「とし書き」にご記入の上、ご参詣下さい。また、特別祈禱も申し受けますので、三日前までにご連絡下さい。

### （生駒 善勝）（その②）

・・・副住職の僧侶としての思い出の数々です・・・

今回私が僧侶になった時のことをお話します。

高野山大学へ進学した後、在学中に僧侶になる為の修行をして資格を得ました。一般家庭で育ちましたので、卒業後、すぐに僧侶の世界に入る決心はつかず、ある企業より内定をもらっていました。

ところが、ある事情により内定が取り消され、途方に暮れていました。その時、大学でお世話になった先輩のお寺へ相談に行き、「雇うことは出来ないけど、ご飯だけは面倒みるから、お寺に居ても良いぞ」と言ってもらい、その言葉に甘えました。そのお寺には先輩と住職が壇務されており、少しずつお参りの仕方など僧侶としての（イロハ）を教えて頂きました。更にお参りに必要な衣と袈裟も用意してくださり、一緒にお参りにも行くようになりました。

ところが、年が明けた一月に、その住職が突然に病気で亡くなってしまわれました。その時、僧侶になることが、恩に報いることだと気付き、僧侶にならなければならぬとの意思が芽生えました。

そして、翌年の四月より再び高野山へ戻り、新たな心でお坊さんへの道を歩み始めました。

### 丹波古刹霊場参拝①

昨年十月十日、丹波古刹霊場の第一回目の参拝を行いました。京都府中西部と兵庫県中東部にまたがる丹波地方の古刹十五ヶ寺霊場のを三回に分けて巡る予定です。

霊場としては余り知られていませんので、皆さん初めての方も多く、新鮮な気持ちでのお参りでした。宗派は真言宗・禅宗とさまざまで、由緒ある寺院が多く、広い境内に多くの伽藍を有する所もあり、時間を掛けてゆっくり拝観致しました。

住職さんの詳しい寺歴の説明や法話などもあり、京都市内の観光寺院では味わえない雰囲気を感じ、長く続いて来た歴史に、感動した一日でした。維持管理は大変だとは思いますが、是非これからも地方の中心として、活躍して頂きたいものです。

次の予定は、四月二十三日（水）の第二回目ですので、是非ご参加下さい。

